



第104期 株主通信

# BUSINESS REPORT

2018年4月1日～2019年3月31日

証券コード:4543



# 「日本発のグローバル企業」として、 世界の医療により大きな貢献を果たしていきます

株主の皆様には、日頃よりテルモグループの事業活動にご理解、ご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

2019年度は、5カ年の中長期成長戦略の3年目、折り返し点にあたります。目標達成へ向けて大きく前進させる重要な一年です。これまでの2カ年を振り返りますと、昨年夏に一部製品に出荷遅延が発生したものの、すべてのカンパニーが足並みを揃えて成長への歩みを進めることができています。

世界の医療を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、既存の仕組みや制度を時代遅れのものとしてしまうパラダイムシフトが起きる可能性があります。デジタル化やロボット医療

などの技術革新に加えて、医療経済性へのニーズの高まりも顕著です。少子高齢化など社会構造上の課題も顕在化しており、これまでにない新しいソリューションが世界的に求められています。テルモは変化を待ち受けるのではなく、変化を機会ととらえて、攻めの姿勢をもって新しい医療に挑戦していきたいと考えています。

各事業のグローバル展開は着実に進展しています。今や先進国、新興国、それぞれに特徴ある医療市場が形成されつつあり、均一的なグローバル標準化戦略ばかりでなく、選択的なローカル市場戦略も必要になっています。例えば中国や一部の新興国市場では、現地生産品の重要性が増えています。一方、競争環境が一段と厳しい先進国市場における成長のカギは、テルモの多様性を生かしたグループ総合力の最大化にあります。日本にかぎらず、米国、欧州においてもコラボレーションを追求していきます。

グローバル化の進展に応じて、この度、企業理念体系を新たに制定しました。今やテルモグループの8割を占めるアソシエイトは外国籍で、人材の多様化が加速しています。25,000人を超えるアソシエイトが共通の価値観および行動原則をもつことで、グローバル企業としての一体感を醸成し、グローバルブランドの強化を図ってまいります。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役社長CEO  
佐藤 慎次郎

## 新企業理念体系を 制定しました

2019年4月、世界中のアソシエイトをつなぐ共通の価値観「コアバリューズ」を新たに制定し、あわせてテルモグループ行動規範を改定しました。

テルモは2021年に設立100周年を迎えます。これからも広く社会から信頼され、グローバルに成長し続ける企業を目指して、アソシエイト一人ひとりが新企業理念を実践してまいります。

### 企業理念

#### 医療を通じて社会に貢献する

私たちは、医療の分野において価値ある商品とサービスを提供し、医療を支える人・受ける人双方の信頼に応え、社会に貢献します。

### コアバリューズ

#### Respect(尊重) — 他者の尊重

私たちは、アソシエイト、お客様、そしてビジネスパートナーに対して敬意と感謝の気持ちをもって接します。多様な文化や個性を理解し、異なる意見や社会の声にも広く耳を傾け、自らの成長に繋げていきます。

#### Integrity(誠実) — 企業理念を胸に

私たちは、人々のいのちや健康に関わる企業のアソシエイトとして、常に、誠実に使命感をもって行動します。日々努力し、全てのステークホルダーとの間に、確かな信頼を築いていきます。

#### Care(ケア) — 患者さんへの想い

私たちは、自らの活動が、患者さんにつながっていることを常に忘れず行動します。医療に携わる人々を深く理解することに努め、患者さんのより良い未来の実現をともに支えています。

#### Quality(品質) — 優れた仕事へのこだわり

私たちは、安全と安心の医療を提供するために、常に現場視点で課題を捉え、解決策を見つけ出します。製品品質のみならず、供給やサービスなど、全ての活動におけるクオリティの向上を徹底的に追求します。

#### Creativity(創造力) — イノベーションの追求

私たちは、未来に挑戦する風土を大切にし、好奇心と情熱をもって取り組みます。医療現場のニーズを的確に捉え、価値ある製品やサービスを最適なタイミングで届けていきます。

## 脳動脈治療の イノベーションで、患者さんの QOL向上を目指す

米国マイクロベンション社は、脳血管内治療の事業を展開しています。2016年には、新形状塞栓デバイスである「WEB」を開発・製品化したシークエントメディカル社をグループに加え、2019年度より米国での本格的な販売を開始しました。今回は、WEBの普及に努めるアソシエイトに話を聞きました。



心臓血管カンパニー ニューロバスキュラー事業  
マイクロベンション社 事業部長

帯津 英士 OBITSU Hidetsu

From U.S.A

### 脳卒中と 治療法の現在

「脳卒中」は、脳の血管が詰まったり破れたりすることで、脳に血液が届かなくなり、脳の神経細胞が障害される病気です。その一つである「クモ膜下出血」は、血管が盛り上がりコブ状になった脳動脈瘤が破れることが一因とされており、開頭手術や血管内治療によってコブへの血流を遮断し、治療します。

この脳血管内治療は、カテーテルを脚の付け根などから挿入して、コイルを脳動脈瘤内に詰める「コイル塞栓術」が主流です。

### 「WEB」がもたらす 患者さんへの“Care(ケア)”

同治療において、新たな塞栓デバイス「WEB」を開発しました。医師による操作を簡便にすることをテーマに、新たな形状を実現しています。これによって、より難しい症例に対してアプローチができ、血管の分岐部にある動脈瘤で、かつ入口部が広い動脈瘤のような、従来のコイルでは留置が難しい箇所への治療が可能になると期待されています。また、クモ膜下出血などの一刻を争う治療が求められる破れた動脈瘤に対して、医師の操作や手順をシンプルにすることで、短時間で止血や再破裂を防止することが期待できます。

結果として、患者さんと医師双方の負担を軽減するだけでなく、患者さんの社会復帰の早期化や、経済面での負担軽減につながることを目指しています。

### トレーニングを通じて 世界の医療現場に広めたい

これまでも欧州では販売されていましたが、2019年度から最大市場である米国で本格的な販売を開始しました。毎年2桁成長を続ける脳血管内治療の市場において、先進的な国である米国での販売は大きな意味を持っています。

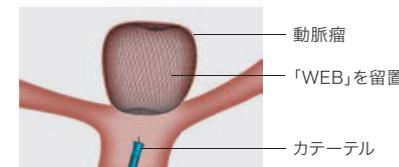
### ▼新形状塞栓デバイス「WEB」

「WEB」は脳動脈瘤の塞栓術治療のうち、血管の分岐部で、かつ入口部が広い動脈瘤に使用される袋状の塞栓デバイスです。形状記憶合金が細かく編み込まれており、専用のカテーテルを通して患部に到達させ、動脈瘤の中で拡げて血液が流れ込むのを遮断する仕組みです。従来のコイル治療では、複数のコイルを動脈瘤内に留置して治療するのに対し、「WEB」は一つのデバイスを留置するので、治療時間の短縮に貢献します。

私のミッションは、全世界に「WEB」を普及させることです。医師が「WEB」の正しい使用方法を習得できるようにトレーニングを実施するなど、モノだけではないトータルな“Quality(品質)”の提供を心がけています。

トレーニングでは、動脈瘤の位置や大きさ、形状など各症例にあわせて、最適なサイズの設定や効果の高い留置方法などを学んでいただきます。これらを通じて実際の医療現場でも、不安なく、より安全で確実に使用していただくことを目指しています。これまでに「WEB」は、6,000例以上の使用実績がありますが、欧米だけでなく今後、アジアや南米などへも普及を目指すためには、トレーニングの推進と臨床効果のエビデンスを一つひとつ積み上げていかなければなりません。また、日本国内でも脳血管の疾病で苦しんでいる患者さんに早く使用していただけるよう準備を進めていきます。

そして、今後も患者さんのQOL向上につなげられるように、「WEB」をはじめとするテルモ製品の普及に取り組んでいきます。



「WEB」による脳動脈瘤の塞栓術治療の仕組み

■ 2019年3月期末の業績報告

売上収益 **5,995** 億円 前年同期比 **+2.0%**

営業利益 **1,066** 億円 前年同期比 **▲1.8%**

カンパニー別売上収益

血液システムカンパニー

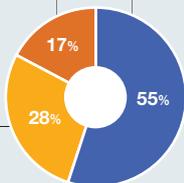
**1,050** 億円  
前期比 **+0.3%**

ホスピタルカンパニー

**1,658** 億円  
前期比 **+4.4%**

心臓血管カンパニー

**3,285** 億円  
前期比 **+1.4%**

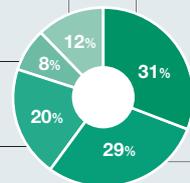


地域別売上収益

アジア他 **688** 億円  
前期比 **+1.8%**

中国 **462** 億円  
前期比 **+11.3%**

欧州 **1,204** 億円  
前期比 **+1.8%**

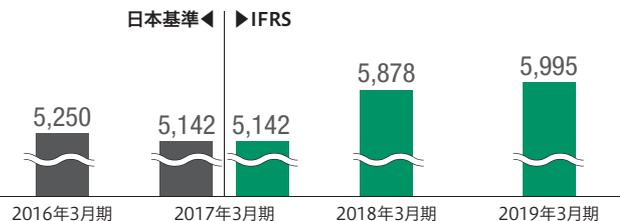


日本 **1,885** 億円  
前期比 **▲0.2%**

米州 **1,756** 億円  
前期比 **+2.3%**

海外合計 **4,110** 億円 前期比 **+3.0%**

■ 売上収益の推移 (単位: 億円)



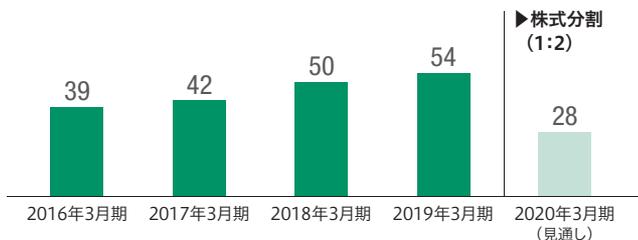
※当社グループは2018年3月期期末決算より、国際会計基準(IFRS)を適用しています。

当期の売上収益は、薬価公定価改定や心臓血管カンパニーにおける一部製品の出荷遅延などがあったものの、全カンパニーにおいて増収となりました。2020年3月期は、消費税引き上げに伴う薬価公定価改定に加えて、新しく導入される欧州医療機器規則(MDR)への適合に伴う準備費用や投資の償却費増などが見込まれます。その影響を吸収し、持続的な成長を実現すべく、取り組んでまいります。

■ 2020年3月期 業績見通し

売上収益 **6,350** 億円 営業利益 **1,090** 億円

■ 配当金の推移 (1株当たり配当金、単位: 円)



当社は、収益を伴った持続的な成長を確保するため、利益の再投資を適正かつ積極的に進め、企業価値の一層の増大を図ってまいります。株主の皆様への利益配分につきましては、安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目指してまいります。当期の年間配当金は、1株につき54円といたします。したがって、期末配当金は、すでにお支払いした中間配当金27円を差し引き、1株につき27円となります。なお、当社は、2019年4月1日付けで、普通株式1株を2株とする株式分割を実施いたしました。次期の年間配当金は、1株につき28円(うち中間配当金14円)を予定しております。

株主総会 決議内容 2019年6月21日に開催された当社第104期定時株主総会において、以下の通り決議されました。

**第1号議案 剰余金処分の件**

当期の期末配当金は、1株につき27円となりました。これにより、中間配当金27円を加えた年間配当金は54円となりました。  
※2019年4月1日付けで、普通株式1株を2株とする株式分割を実施いたしました。上期期末配当金は2019年3月31日時点の株式数に対してお支払いいたします。

**第2号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く)8名選任の件**

三村孝仁、佐藤慎次郎、高木俊明、羽田野彰士、森郁夫、上田龍三および黒田由貴子の7氏が再選され、西川恭氏が新たに選任されました。  
(森郁夫、上田龍三、黒田由貴子の3氏は、社外取締役です)

**第3号議案 監査等委員である取締役3名選任の件**

木村義弘氏が再選され、中村雅一および宇野総一郎の両氏が新たに選任されました。  
(中村雅一、宇野総一郎の両氏は社外取締役です)

**第4号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件**

坂口公一氏が選任されました。  
(坂口公一氏は、補欠の社外取締役です)

**第5号議案 取締役(監査等委員である取締役および社外取締役を除く)に対する譲渡制限付株式のための報酬枠の設定および従前の報酬枠の変更ならびに報酬決定の件**  
原案どおり、承認可決されました。

**期末配当金のお支払いについて**

第104期期末配当金は、同封の「期末配当金領収証」によりお支払いいたしますので、払渡期間中(2019年6月24日～2019年7月31日)にお近くのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りください。また、口座振込ご指定の方には、「期末配当金計算書」および「配当金振込先ご確認」のご案内を同封いたしましたので、ご確認ください。

**株式についてのご案内**

- ◎事業年度 4月1日から3月31日まで
- ◎株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- ◎同連絡先(郵便物送付・電話照会)  
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 電話:0120-232-711(フリーダイヤル)
- ◎単元株式数 100株

**株主優待のご案内**

**ご希望者全員に「2020年テルモカレンダー」をお送りします**

同封はがき、または下記ウェブサイトからご応募いただいたすべての株主様に、絵本作家・谷内こうた氏を起用した「2020年テルモカレンダー」をお送りします(発送は2019年12月頃を予定)。テルモカレンダーは、毎年ほのぼのとしたやさしい色彩とタッチの画家・絵本作家などを起用しており、お客様からも大変好評です。



※写真は2019年版です

応募サイトURL:

<https://www.enq-plus.com/enq/terumocal2020/form/>

お問い合わせ 0120-993-637(平日10～17時)



**ウェブサイト  
リニューアルしました!**



事業の紹介やサステナビリティに関する取り組みなどのコンテンツも充実させました。ぜひご覧ください。

テルモウェブサイト トップページ:  
<https://www.terumo.co.jp/>



テルモは、第一次世界大戦の影響で輸入が途絶えた体温計を国産化するために、北里柴三郎博士をはじめとする医師らが発起人となり、1921年に設立されました。

北里柴三郎博士(資料提供:学校法人北里研究所)

